



# The Star in the West

## 東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題  
アジア会長主題  
東日本区理事主題  
あずさ部部長主題  
東京西クラブ会長主題

“Yes, we can change 「私たちは変えられる」  
“Action” 「アクション」  
「為せば、成る」 No challenge No fruits  
「未来はそれに備える人のものである」  
「入りたいな」と思われる楽しい例会に

2018年10月号  
NO 505

友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。

ヨハネによる福音書：15章 13節

### 今月の強調 「新クラブづくり」

吉田明弘

### 爽秋、相模国分寺跡と寒川神社 WHOウォーキングのご案内

今月の「強調課題」は、「クラブ拡張」です。

ワイズの戸籍でいえば、東京西クラブには、2人の子、東京たんぽぽクラブと東京セントラルクラブがありますが、どちらも、クラブづくりの道筋を自分たちで整え、私たちは、“烏帽子親”“頼まれ親”であって、自ら産み、育てた実感がないのです。

昨年、日本区時代の大阪クラブから始まる全クラブ、東日本区になってからの全クラブの設立動機を調べました。当然ながらすでにYMCAのある場所、あるいは進出を目指している地域へ設置を図ったケースが多くありました。また、富士山部のクラブに代表されるように、「自分たちは地域に良い働きをしながら交流を楽しんでいる、この運動を近隣の都市にも広げたい」という動機もありました。クラブ周年記念事業という理由が重なるケースも

ありました。

これら表向きの動機に加えて一方、人間的、個人的な動機のあることは見逃せません。

同じ地域に住んでいる、ライフスタイルが似通っている、話が合う、世代が近い、奉仕についての考え、路線が共通、現在のクラブには働き場がない、まれには、一度はクラブづくりに、参加してみたい。だから新クラブを設立したいなどの動機もあります。私たちのクラブは東京YMCA杉並センターの開所がきっかけでした。

現在、私たちは、クラブとして、その動機を見出していません。

私たちに今、できることは、多様な人をクラブに参加してもらい、メンバーの層を厚くし、後日を期すこと、また設立準備を進めている新クラブに友人、知人を紹介し、その人と新クラブにある種の責任を持つことだと思います。



3分の1縮尺模型の塔  
相模国分寺七重の塔

高さ65mの七重塔のあったとされる相模国分寺跡と相模国の一之宮・寒川神社を歩き、古代の人々の営みを想います。刈入れの終わった田圃、秋色の丹沢連峰も魅力です。集合場所に集合時間に集まった人が参加者です

期日：10月27日(第4土曜日)  
集合：小田急小田原線・海老名駅中央改札前 10:00  
解散：同 15:00  
参加費：300円、交通費は個人負担(初参加の方は別に名札代として200円)

### クラブ役員

会長 本川 悦子  
副会長 高嶋美知子  
書記 石井 元子  
会計 河原崎和美  
担当主事 木川 拓

9月の記録		ニコニコ	8,300円
在籍者数 15人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	0円
出席者数 9人	コメント 0人	ファンド残高	151,534円
メーカーシップ 1人	ビジター 1人	ホテ校ファンド	11,000円
出席率 71%	ゲスト 8人	ホテ校残高	48,654円
前月修正 -	出席者合計 19人	WHO参加者	27人

## 10月例会のご案内

## 今月の強調テーマ：新クラブづくり

「上手な付き合い方」シリーズ第2弾は、ドイツ人との楽しい付き合い方です。ドイツでの生活の長い井上康子さんから、日独の行動や発想の違いや、お互いの国に対して抱いているイメージのギャップについて伺います。お誘いあわせの上、ご出席ください。

日時：10月18日(木) 18:45~21:00

会場：ウエルファーム杉並（4階集会室）

（杉並区天沼3-19-16 TEL03-5335-7330）

会費：1,500円（ゲスト・ビジター・メネット）

担当：A班（鳥越、高嶋、吉田）

## HAPPY BIRTHDAY

当クラブ該当者なし

受付 高嶋美知子  
司会 村野 絢子

開会点鐘 会長 本川 悦子  
ワイズソング 一同  
聖書朗読・感謝 司会者  
挨拶・ゲスト&ビジター紹介 本川 会長  
会食

卓話 「ドイツ人との上手な付き合い方」  
井上 康子さん

諸報告 本川 会長  
YMCA 報告 担当主事・木川 拓  
ハッピーバースデー 本川 会長  
ニコニコ 一同  
閉会点鐘 本川 会長

## － 9月第2例会(事務会) －

日時：9月27日(木)

19:00~21:00

会場：ウエルファーム杉並 4F

出席者：大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、吉田、石井

## &lt;報告事項&gt;

- ①9月のデータを確認し、8月のデータ（出席者数など）を修正した。
- ②7月、8月、9月の月次会計報告が説明され、承認した。
- ③前年度決算報告が説明され、監査報告とともに承認した。
- ④本年度予算案が提出されたが、不明な箇所があり、精査して次月で説明する。予算書、決算書の費目の整理案を今年度中に検討する。
- ⑤高嶋さんが中西部会に参加し、DBC ペンタゴン集会に出席した。
- ⑥チャリティーランに当クラブより篠原、鳥越、本川、吉田、神崎、木川の6人が参加した。
- ⑦ウエルファーム杉並では、会議室不正使用のため、情報提出が求められるようになった。写真撮影は20日前に申請することになる。

## &lt;協議事項・例会事項&gt;

①10月例会で全員の写真撮影を行う。

②10月第2例会(事務会)

日時：10月25日(木)

19:00~21:00

会場：ウエルファーム杉並 4F

③11月例会の卓話者は、神谷さんが提案する。

④12月クリスマス例会は、高嶋邸で行う予定。

## &lt;協議事項・例会以外&gt;

①庄野さんに百歳の誕生祝カードを贈る。会員継続については、手紙で問い合わせ中。

②あずさ部会の現時点での出席予定者は、大野、神谷、河原崎、篠原、鳥越、本川、石井。

③あずさ部長訪問の時期が未定なので、あずさ部会時に先方と相談して決める。

(書記・石井元子)

## 10月以降の行事

▲10月20日(土)

あずさ部会 ホスト・甲府21

▲12月15日(土)

松本クラブ30周年記念例会とアジア賞授賞式(同クラブが毎年行っている、アジアからの私費留学生の日本語論文コンテスト)

## 卓話者紹介

## 井上 康子 (いのうえ・みちこ)さん

父が欧州の企業に転じたため、幼稚園時代に渡仏、その後当時の西ドイツに移り、大学卒業後マックスブラウン研究所で音声学と心理学を研究。声の分析、映画台本の翻訳、映画のドイツ語への翻訳吹き替え、発音訓練なども行う。2017年に帰国。ドイツ人より正確なドイツ語を話すと言われる。日本語、ドイツ語、フランス語が堪能。趣味は、ハイキング、旅行、書道。杉並区在住。

## WHO情報が簡単に得られます

今月のWHOウォーキングのコースの予定と、前月の報告が、パソコンやスマホで、写真入りで見ることが出来ます。

<http://tokyo.ymca.or.jp/communty/2018/08/20180827-2.html>

QRコード⇒  
(10月・寒川神社・相模国分寺)





9月例会卓話者の古市理代さんと紹介者石井真紀子さん

### － 9月例会報告－

9月例会は20日(木)に行われ、NPO法人アクセプションズ理事長古市理代さんから、「ボランティアに求められているのは何? ~ダウン症の子供を持つ親の立場から伝えたいこと~」と題して、お話をうかがいました。

以下はその内容です。

息子にダウン症があることから2012年にダウン症の子供を持つ親が立ち上げたNPOに加わり、現在理事長を務めています。

私たちの主な活動である「パディウォーク」はダウン症のある人と共に歩く世界的なチャリティーウォークイベントで、2012年の第1回開催以来徐々に全国に広がっています。昨年のお宿での開催には1,500人が参加しました。

私たちはダウン症の人々やその家族が差別なく健やかに暮らせる地域社会づくりに寄与することです。2番目はダウン症の正しい理解と普及のための活動をし、社会に発信することで、ダウン症のイメージを変えていきたいと考えています。

現在14歳の息子は、2歳で自閉傾向が現れ子育ては困難でしたが、区立幼稚園、地域の小中学校に進学し、子ども同士のかかわりの中でゆっくりと成長しています。私自身子育てを通し自分の中にある偏見に気付きましたが、多くの出会いの中で、個性を持った子どもとして接すること、良いところを見つけること、親が子離



大塚古墳の頂上地面には出土した副葬品が描かれている

れる必要性を学びました。

日本はまだ社会的弱者が優先されない社会です。地域差もありますが、その中で、肢体不自由者、ダウン症、自閉症、発達障害、複合障害者、高齢者、ゲイなどのマイノリティーの人々が、共生できる社会を願っています。最近自立のためのシェアハウス等、よいニュースも聞こえます。

以上のお話をお聞きした後、参加者がひとつづつ感想を述べ、とても豊かな気持ちになりました。

(村野絢子)

出席者：石井、大野、神谷、河原崎、高嶋、鳥越、村野、本川、吉田、<メネット>神谷、<ビジター>関喜一郎(石巻広域)、<ゲスト>古市理代(卓話者)、石井真紀子、岩瀬和子、西村真知子、矢部恵津子、青柳千賀子、恒石浩志、渡辺宣子 <MP>篠原(第2例会)

### ハケはここにも、 等々力溪谷・五島美術館 WHO 9月例会報告

9月のWHOウォーキングは、22日。午後3時頃から雨との予報でしたが、9時45分の大井町線等々力駅での待ち合わせから傘をさしていました。

この地は、かつては玉川村、明治になって玉川町となりました。江戸城がまだ江戸の中心でない時代に、世田谷城の吉良氏が支配し、小田原北条と北関東を経済的、軍事的に結ぶ要地だったそう

です。1470年開山の満願寺から地域の総鎮守玉川神社へ。

用賀中央通りの食品スーパーの裏手、平地を鋭く削ったように等々力溪谷が現れました。水の流れに沿って歩きます。雨はあがりました。両岸は10数m高さの崖。何層もの地層断面が観察できます。雨はあがりました。

溪谷は600mほどですが、途中で左岸にある古代の横穴墓、平地に戻り、等々力不動尊を訪ね、再び溪流に下りました。滝音の轟きが地名の由来と言われる不動の滝は、2本の滝口から流れていました。対岸の日本庭園にある書院も利用して昼食。

ここから野毛大塚古墳へ。5世紀初頭に築かれた帆立貝型古墳で、高さが10m、この型では東日本では最大規模です。出土品から南武蔵(川崎、横浜の一部を含む)の小豪族を支配した大首長のもものと推測されています。希望者は墳丘に上りました。

環八通りの南側のハケ(国分寺崖線)沿いのおしゃれな家並みの道を上野毛の五島美術館へ。東急グループの総帥五島慶太が蒐集した美術品が保管展示されています。今回は、ハケの自然を最大限に生かした庭園を自由散歩することにして、ここで解散しました。

参加者は、27人。ワイズ関係は、石井・吉田(東京西)、中澤・藤江(東京たんぼぼ)、樋口(東京グリーン)でした。(吉田明弘)



チャリランコースの東京西クラブからのボランティア

### 第32回チャリティーラン開催

9月23日(日)、木場公園でチャリティーランが開催されました。当日は公園の芝生広場で、江東クラブの西日本豪雨災害のチャリティーイベントとしての気球体験会もあるので、会場での賑わいを見ながらチャリラン会場へ向かいました。

すでに会場のテントは設置され、ランを待つ家族連れが開始を待っていました。しかしコース準備の時間になっても、いつも見かけるワイズの姿が少なく、それでもYMCAの学生たちと手際よく赤いコーンや黄色のバーなどを並べ終わり、木陰で一休み。それでもワイズメンはまばら、今年は何の行事と重なったのかと残念に思いました。

参加チーム数は例年と変わり

ない様子でしたが、子ども達の可愛いランのあとは、本番のチャリティーランが始まって応援者の数が少なく、ランナーに申し訳ないくらいの寂しい応援になっていたようです。

でもお楽しみ抽選会は盛り上がり、次々と読み上げられる当選者が駆け寄り記念撮影が続けられ、東京たんぼぼの小原史奈子さんに当たったタブレット端末を辞退されたときは、思いがけないプレゼントとして歓声が上がりました。会場で久しぶりにクラブメンバーの神崎総主事にお会いでき、例会での再会を約しお別れました。

当日のボランティア参加者は、木川、本川、鳥越、吉田、篠原の5人、爽やかな秋の1日でした。

(篠原文恵)

### 元気をもらおう！ あずさ部会！

あずさ部の年に一度のお祭り、部会が、下記の通り行われます。ホストは、現在あずさ部で最も活発な甲府21クラブです。参加して元気をもらいましょう。

日時：10月20日(土) 12:00~15:00 登録開始 11:30

会場：甲府ローヤル会館8階 ローヤルルーム

講演：「うつ病と認知症の予防」

功刀弘(甲府21 精神科医)

アトラクション：

合唱・ハンドベル 山梨英和高聖歌隊

みんなで楽しく歌おう

独唱 杉田博子さん(ソプラノ歌手)

○ホテル学校の2年生たちは卒業まで残り半年となりました。迫る2020年東京オリンピックや昨今の外国人渡航者数の増加から東京、沖縄など多数の新規ホテルが開業し、就職活動も早くから積極的に取り組んでいます。現在までに132人中、123人(93.2%)が内定しました。学生たちは4月からの新社会人に向け、更なる成長を目指し、選択授業を通じて語学力や技術向上に努めています。12月中旬にはシンガポール・香港・タイと3コースにて海外ホテル・観光研修に渡航します。

○9月23日、木場公園にて「第32回東京YMCAインターナショナル・チャリティーラン」が開催されました。障害のある子供たちを支援する目的の駅伝大会には、およそ300人、49チームのランナーと伴奏者が快走しました。レース前の「こどもラン」には450人、その保護者あわせ約700人が参加。沿道をうめた応援者、ボランティアスタッフ約150人を合わせると来場者数は1,500人を越え、今年も笑顔あふれるにぎやかな大会となりました。

○9月15日、毎年恒例の国際協力一斉街頭募金をJR新宿駅東口、西口、南口にて実施しました。東京YMCAコミュニティーセンター、学校、幼稚園をはじめ、集まったボランティアは総勢196人。バングラディッシュの教育支援を元気な声で呼びかけました。当日寄せられた募金総額は213,467円。皆様の温かなご支援に心から感謝を申し上げます。

○山手会館は7月中旬から段階的に耐震補強工事と館内リニューアルを進めています。地下プールは改修が終わり、9月から再開。ホテル学校は「東京富士大学」にて、高等学院は「早稲田奉仕園」とそれぞれ校舎を借りて授業を実施。移転期間は来年3月まで。

(担当主事 木川 拓)

## ☆☆ インタビュー ☆☆ 涌澤 博さんに聴く

\* \* \*

涌澤博（わくざわ・ひろし）さんは、仙台青葉城クラブ所属。24年前、23歳で入会しました。



—仙台のお生まれですね。

「仙台市宮城野区にある鶴ヶ谷団地で生まれました。当時、東北最大級のニュータウンで、団地内には2つの小学校があり、合わせて3,200人の学童がいました」

—子どもの頃は、どんな子でした。

「出掛けるのが好きで、常日頃MAPを眺めながら、ここに行きたいとか考えていました」

—何になりたかったですか。

「小さい頃から周りにお父さんの仕事をするんだよねと言われていて、その気でいました」

—学校では。

「高校時代は水泳部に所属していました。部活や学業よりも遊びの方が忙しかったですね」

—現在のお仕事は。

「父が創業した冷凍機設備の会社を2001年に継ぎました」

—学校を卒業してすぐに、現在の会社に入られたのですか。

「当時はバブル経済の真っただ中で、家業も忙しくそのまま父の会社の手伝いをしました」

—どんな仕事もそうでしょうか、ご苦労があるのですよ。

「能力もちろんですが、最近の機器は故障も少なくなりました。私が入社した頃は、昼夜問わずに電話がかかってきていました。特に冷凍は待ったなしで、夏休みなども遠くに出掛けられませんでしたね。今でも休日に出掛

ける時は、社員に在宅させることもあります」

—今年の夏は猛暑でした。

「冷凍機よりエアコンの新規取付け、入替え、緊急修理が多く発生しました。以前であればエアコン修理なら、少し我慢してと言えたのですが、熱中症で倒れてからでは大変なので、今年の夏は、エアコン修理、取付けもが多くて対応に追われました」

—23歳で仙台青葉城クラブに入会されましたね。

「1994年8月の入会でした。当時、日本区時代でしたが、区で一番若いと言われました」

—私も20代での入会ですが、それでも30歳寸前、23歳とは。誰から何と言って誘われたのですか。

「元メンバー、仙台青葉城クラブの遠藤勝志さんです。これからは若い人が沢山入るから大丈夫だよと…」

—すぐなじめましたか。

「話が違うと思いつつ、例会で挨拶などするときには緊張で震えていたことを思い出します」

—もともと、YMCAやワイズに縁があったのですか。

「いいえ、ワイズに入るまでYMCAがあることは知っていましたが、縁はありませんでした」

—今は、YMCAでも役割を担われていますね。

「仙台YMCAの常議員と会員開発委員会委員長(維持会員拡張)をお引き受け致しております」

—東日本大震災発生の時は、どこにおられました。

「当時は次期会長で、翌日から行われる次期クラブ会長研修会の準備のために、地震発生の10分ほど前に自宅マンションに戻り、被災しました。」

—直接的な被害はありましたか。

「家電、家具、食器が殆ど壊れましたが、死者やケガ人が周りに出なかったのが不幸中の幸いでした」

—大震災から7年。何か変わったことは。

「他の地域で大規模な自然災害が発生した時に、何かできないかを考えるようになりました」

—今までに、ワイズに加わっていてよかったと思うことは。

「人脈の幅が大きくなったことです。出会いは財産ですね」

—今、日本のワイズメンでも高齢化が進んでいます。若い層の参加が急務と思いますが、なにか考えをお持ちですか。

「大企業の若いサラリーマンでも上司の誘いを普通に断れる時代ですので、楽しい会でないとは集まらないのでは。しかし私たち世代が同年代(40代程度)の方を多く誘うことは可能だと考えています」

—仙台YMCAのスタッフに「ワイズメンズクラブとは」と題して講演されたとか。

「YMCAの職員でもワイズがわからない方が多く、新人職員もいなかったのでワイズ用語を使わないで説明するのが結構難しかったですね。おおむねワイズの組織とYMCAとの関係くらいは理解していただいたかと思います」

—来年は仙台でアジア太平洋地域大会ですね。やはり、地元のワイズメンが頼りにされますが。

「仙台ならではのおもてなしができます。地元のクラブも盛り上がってきていますので、ぜひ多くのワイズに参加して頂きたいと願っています」

—涌澤さんは、準備段階での北東部の部長でもありますね。

「そうです。部長主題を『チャンス到来 われら北東部から世界へ』としました。アジア大会を機に北東部を盛り上げることを考えています」

—ぜひ、まだワイズを知らない地域の方々にも大会を通して、ワイズのアピールができるといいですね。ありがとうございました。

(吉田明弘)

**旅で出会った人 ①**

村野絢子

**ルイネ・ブリッタ夫妻  
(スウェーデン)**

ストックホルムの国際大会に参加した。結婚して15年、夫と子どもたちの「行ったら」の声に乗り、呆れた母さんは初めての一人旅。

東京から羽鳥直之・玲子夫妻、上妻英夫さんが、ご一緒だった。ひとつ飛びで、異国の地コペンハーゲンに到着。アンデルセンの国、色とりどりの建物が可愛くまるで絵本の世界。汽車にはバゲットとリンゴをかじるドイツの若

者、織物を学ぶためフィンランドに向かう。

翌日ネヒューという町に着いた。ここで各自、大会までホームステイする。私は湖のほとりに建つルイネ・ブリッタ夫妻の可愛い手作りの別荘に案内された。

二人は鉄道の仕事でエジプトに住んだので英語が堪能、有難かった。ルイネはリタイアし、日本からの客(私)を迎えるため一部屋増築までして、ブリッタは郵便局で働くお料理上手、素敵なお夫婦。

翌日、教会の別荘に案内され、夜の湖でボートに乗り、オルガンの伴奏で賛美歌を歌ったのも忘

れられない。

17年後、東洋英和の友人4人で北欧旅行をした折、乗り換えのため、ネヒュー駅に止まり、ルイネに電話した。「私は17年前あなたのお家にステイした絢子です。分かりますか？」ブリッタの懐かしい声「絢子の声忘れない、今どこ？連絡先を教えてください。何と再会できた!? 夢のよう。」



東京江東クラブが上げた熱気球

**やりますね、東京江東クラブ  
熱気球搭乗会**

東京YMCAのチャリティーランの行われた9月23日、深川の都立木場公園のふれあい広場にぽっかりと熱気球が秋空に浮いていました。子どもたちと付き添いの親が大勢列をつくっていました。

チャリティーランとは関係ないだろうけど、どんな団体がどんな目的でやっているのか知りたくて、スタッフと思しき男性に近寄ったら、なんと、東京江東クラブの安藤正武さんと、酒向裕司さんでした。子どもたちに熱気球の搭乗経験をしてもらうために、東京江東クラブが中心となって、YMCA、地元の熱気球同好会の協力と、江東区の後援を得て、行っているものでした。

この日は、朝5時に集合して準備をして、7時から搭乗を開始して、風が強くなる10時までに484人の親子を搭乗させたそうです。いかにも地元密着の東京江東クラブらしい企画でした。

(吉田明弘)

**WHO 高尾山の予定**

WHO ウォーキングは、11月20日(火)に高尾山(599m)に登ります。

高尾山には、子ども連れや外国からの団体客なども訪れています。今回は、往復ともケーブルカーを利用し、比較的平坦で道幅も広い表参道を歩きます。通常なら普段のウォーキングとあまり変わりません。しかし、何か起きた時には、“山”ですから危険があります。安全を優先します。自己

責任をお願いします。

今回のコースには登山者は多いのですが、逆に迷子が心配です。そのため参加は、これまでWHOに参加された方に限り、予約の定員を先着35人とします。リーダーに、高尾山に経験豊富な東京八王子クラブの久保田貞視さん、長谷川あや子さんらに加わっていただきます。

これに先がけて、10月12日(火)にクラブメンバーを中心に下見を行う予定です。

日 時:11月20日(第3火曜日)

**編集後記**

中学に入って間もなく、授業中に背中を鉛筆で突つかれました。クラスの新聞を作るから、お前もこれに何か書けと、わら半紙が回ってきました。教師の目を盗んで書き込んで、前の子の背中を突きました。

しばらくして、また回ってきて、お前のは面白くないから書き直せ。他の子の書いたものは、みなパロディーになっていました。

自分の幼さを恥じました。新聞は、2時限で完成しました。なんであんなに簡単に出来たのだろうと、今、ブリテンを編集しながら、つくづく思います。(AY)